

## HKS、車カスタムパーツで東南アジア強化 海外比率5割に - 企業動・静

2024/11/21 05:00 日本経済新聞電子版 1373文字

自動車向けカスタムパーツ製造のエッチ・ケー・エス（HKS）は成長市場の東南アジアをてこ入れする。現地の富裕層らが好む欧州車や四駆向けの製品開発を進める。開発人材も海外で確保する。2024年8月期は32%だった海外比率を5割に高め、5年以内に売上高100億円、22年8月期の5億円弱を上回る最高益の達成を目指す。

7月にはタイで製造と販売の2社に分かれていた現地法人を集約した。経営を効率化し、既存拠点を生かしてマレーシアやインドネシアなど周辺国に手を広げる。現在は海外では米国が主力市場だがアジアのシェアを5年以内に15%から20%に引き上げる。

東南アジアは経済成長が続き富裕層が増えているため自動車の改造需要を見込む。ドイツやイタリアなど欧州車メーカーに対応した製品は2社向けにとどまるが、さらに開拓を進める。日本車はピックアップトラックなどの四駆向けを強化する。

マフラーはタイの専用工場から、高級車向けなど高付加価値品を含むその他の製品は静岡県富士宮市の工場から輸出する。東南アジア向けの製品開発はタイの研究拠点が担う。水口大輔社長は現地開発の利点について「地域ごとに人気の車種が異なり、ニーズに合わせやすい」と説明する。

事業拡大の要である開発人材の採用も強化する。国内では人手不足が続くとみており海外人材も積極的に採用する。国内への留学生らにアプローチするほか、人材紹介業者なども活用し海外に出向いて面接も行っている。

HKSはヤマハ発動機のエンジニアだった創業者が「世界一速いエンジンをつくる」との思いで1973年に設立し、74年にターボキットがヒット。その後も衝撃を緩和するサスペンションや排気音を調整するマフラーなどを次々と開発し、自動車用の総合アフターパーツメーカーとして国内シェア首位に成長した。

11月中旬、富士宮市の工場ではサスペンションの組み立てラインに複数の作業員が並んでいた。部品加工では自動化を進めるが、少量多品種生産のため労働集約的だ。組み立て作業では1時間ごとにラインも組み直す。コストを抑えるため「他社と比べて内製化率を高めており、生産量を柔軟に調整できる」（担当者）。

アフターパーツは嗜好品の側面もあり、主力市場の米国や中国の景況に業績が左右されやすいリスクがある。24年8月期は純利益が前の期比23%減の3億4700万円、売上高は3%減の90億円だった。中国景気の停滞や米国の金利の高止まりなどで需要が抑制された。25年8月期の連結純利益は前期比14%減の3億円を見込む。

そこで、もう一つの柱である自動車メーカーから部品の受託開発事業も重視する。自動車業界では電気自動車（EV）や自動運転など次世代技術の研究が盛んで、エンジンなど既存部品の開発に人材や資金を割きにくく需要が堅調という。



HKSが製造したカスタムパーツによりチューニングしたデモカー



HKSの水口大輔社長



HKSはエンジンをはじめ、マフラーやサスペンションなどの自動車用のアフターパーツで国内シェア首位を誇る

「アフターパーツの市況の変動は自動車部品よりもやや遅れて反映される」（水口社長）とし、リーマン・ショック後も本業の落ち込みも受託開発で補って乗り切った。

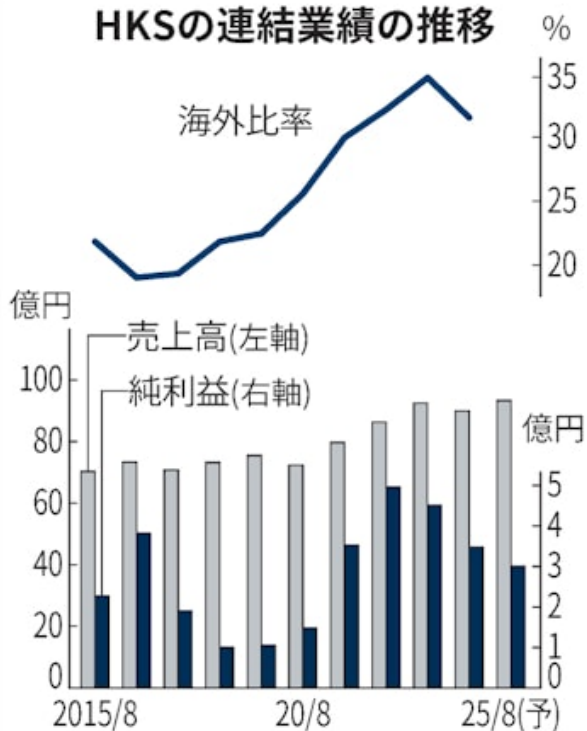
足元の環境も米中市場の悪化で厳しいが、水口社長は「世界の自動車生産台数をみると、まだまだ海外市場は我々にとって大きな市場になっていく」と強調する。市場が広がればリスクが分散され変化への対応力も高まる。強みである開発力を生かして海外を軸にさらなる成長を描けるかが問われる。

（村上和）

【企業動・静】

- ・トヨタ系触媒大手のキャタラー、米国に新工場 増産備え
- ・車部品のユニバンス、タイEV三輪に出資 新事業テコ入れ
- ・村上開明堂、車用ミラーで海外攻勢 インドテコ入れ

## HKSの連結業績の推移



許諾番号30101407 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。  
 本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。  
 本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。  
 Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.